ゆり PTA だより

令和5年6月30日（金）発行　No.3
秋田県立ゆり支援学校 PTA 事務局

秋田県特別支援学校ＰＴＡ連合会　教育講演会

６月２日、県内特別支援学校を会場にしてオンラインによる教育講演会が行われました。南秋地区で地域の理解のもと規模を広げ、多くの施設を開設して農業、菓子、惣菜、ランドリーなど様々な業種に幅広く事業展開されている松橋氏の講話を伺いました。講話では「信頼関係」という言葉が何度もありました。利用者さんを本当に大切に、第一に考えて取組がなされていることが伝わりました。内容について紹介します。

講師　　社会福祉法人　南秋福祉会　理事
　　総括管理　　松橋　喜美男　氏
演題　　「一人一人に応じた進路の在り方と福祉就労の実践から」

◇ 南秋福祉会が経営する施設の概要　　【施設等については裏面をご覧ください】

- 立ち上げから２３年目、中規模。資金が必要なので土地や建物を借り入れ、購入などをして経営を広げてきた。頑張っていないと応援してもらえないため、市町村、地域等いろいろ働きかけて協力をいただいた。畑は９０a で野菜、果物を育て販売したり、加工してジャムや菓子、惣菜などを作ったりしている。

◇ 一人一人に応じた進路の在り方

- Ｂ型事業所が増えている。利用者は施設を選択できるようになってきている。何を優先するのかを早く決められれば良い。「高い工賃」なのか「活動内容」なのか。全部選ぶことは難しいかもしれない。高い工賃を得るにはそれなりの作業能力が必要となる。
- 施設が利用者さんの得意なことを見付けて生かしてくれるかも重要。それには施設職員の力量も大事で生活介護も同様。施設の特徴、情報を集めて選択してほしい。施設数が増えたことで、選ぶことができるようになった。社会との関わりをもち、自分らしさを失われない人生を歩める施設を選んでほしい。
- 利用者の人生がかかっているので、大きな責任を感じる。選んでよかったと思ってほしい。それには職員と利用者さんの信頼関係が一番大事だと感じる。職員が「一緒にやる」姿勢を大事に取り組んでいる。

◇ これまでに大切にしてきたこと

- 職員の研修を多く行っている（年代別研修、有資格者研修、調理研修等）。施設の方針を決めても職員個々で左右されることがあるため、研修を重ねて繰り返し伝えている。人間性が問われる仕事だと思っている。職員同士「叱責」「怒鳴る」「いじめ」を禁止している。「ちゃん付け」はせず、言葉遣いにも気を付けている。
- 職員も利用者さんも仕事が楽しく、一日過ぎるのが早いと感じる人が多い。利用者さんは正直で職員の表情や態度、利用者への関わりなどをよく見ている。私自身存在感を感じ取れるのは利用者さんと対峙しているから。人に必要とされたい、役に立ちたいと思う気持ちは利用者さんも同じ。
- 障害を「苦手なこと」と捉えている。誰にも苦手なことがあり、自分たちも変わらない。やりがいを求めるなら、大変さを感じながらも、協力して達成することが大事。自分も職員も利用者さんのために頑張っている。信頼関係は大変大事で出発点。

◇ 福祉就労をするために身に付けておいた方がよいこと

- 「自分の気持ちを伝えることができる」ことが大事。自分のやりたいこと、やりたくない理由、悩みなども言えることが大事。
- ささいなこと、何でもいいから経験すること（挨拶、掃除、茶碗洗い、お菓子作り、裁縫など）。
- 運動嫌いな利用者さんが多い。運動する習慣、バランスのよい食事も大事。家庭だと好きな物だけ食べることもあるように思う。施設のみでは限界がある。
- 認められることでよい方向に向かう。「怒られるからやる」のは身についていないこと。
- 家庭での手伝いから、働く喜びにつながる。身近な人の役に立つ、認められることが嬉しい。

裏面有り

◇ 親として将来を考える

- 親離れ、子離れの前提にはしっかりした親子関係がなければいけない。関係性がしっかりしていないと不安を感じる。厳しいだけでもだめ。
- 施設を信頼しなければうまくいかない。施設に委ねてほしい。施設と保護者の関係も信頼関係から成る。
- 家族から離れる経験をしてほしい（ショートステイなど）。安心して離れるには安心して暮らした経験が必要。

◇ なぜ規模を拡大するのか

- 設備投資のため。利用者の作業力を生かすために資金が必要。事業展開すると人事異動も多くなるが、優れた人材を雇え、看護師が３名いる。安心して選んでもらうことが、利用者さんも職員にとっても幸せ。